

川崎支部便り 第86号 (2025年03月)

オープンで各自が主役：川崎支部

川崎支部支部長 山岸一雄 (執筆：山岸)

人生を豊かに (雑学のすすめ)

【国際連盟が調べて「侵略ではない」と結論付けたことを、東京裁判では「侵略である」と言おうとしている？】

満州事変が侵略戦争でないことは、リットン調査団の報告から明らかです。「満州事変は侵略とは言えない」と報告したリットン調査団。

東京裁判では満州事変は日本が起こした侵略戦争という論法です。果たして満州事変は本当に侵略戦争であったのか。現在、日本人の殆どが満州事変は侵略戦争であったと考えている様ですが、これは東京裁判の影響が大きいと言わざるを得ません。

以前述べた様に、本来ならば1931年(昭和6年)に起こった満州事変は、どう見てもポツダム宣言に示されている「今次の大戦」には当たりません。しかし、戦争の始まりを1928年、つまり昭和3年とすることで満州事変をも裁判の対象としました。仮にそうであっても、日本には不戦条約に基づいてこれを自衛のための戦争であると主張する権利が有ります。にもかかわらず、裁判は弁護側の主張を無視する形で進められました。

日本でも戦後の左翼の歴史家が、「十五年戦争」といっているのは、満州事変(昭和6年=1931年)から大東亜戦争終結(昭和20年=1945年)までを一つの戦争と見なす東京裁判の検事側に無批判に同調しているからです。しかし、満州事変が侵略戦争であったという検事側の主張は簡単に反駁(はんぱく)。「反駁」は論じ返すというニュアンスが強い言葉で、「反論」は単に言い返す 出来ません。

満州事変が起こった時、当時の国際連盟はすぐにイギリス人のリットンを団長としたいわゆるリットン調査団を送り込みました。調査団の内訳はイギリス、あまりか、フランス、ドイツ、イタリアの5か国からそれぞれ1人ずつとなります。調査団は3か月かけて調査をし、結果を英文で百数十ページに及ぶレポートにまとめました。「これはある国が隣の国へ攻め込んだという様な簡単な侵略とは言えない」と結論づけています。

つまり、当時の国際連盟が調べて「侵略ではない」と結論付けたことを、東京裁判では「侵略である」と言おうとしているのです。そして、それを立証するために満州国皇帝溥儀(ふぎ)を引っ張り出してきました。溥儀は「自分は満州国皇帝になんかなりたくはなかったが、日本人に否応なしに引っ張り出された」という趣旨の証言をしていますが、これは本心ではありません。裁判になる前、ソ連に捕えられ、反日の虚偽の証言をするよう脅迫されていたのです。つまり生命を脅かされている状況の下で検事側に都合の良い証言をさせられたのです。

偽証をさせてまで満州事変を侵略戦争と決めつけようとしたのは、そうしなければ、東京裁判で裁くべき問題がほとんどなくなってしまうからです。満州事変直後に英米仏の代表も加わった調査団が「簡単に侵略とは認められない」と結論づけている事件を蒸し返して、無理やり侵略戦争に仕立て上げようとするところに、東京裁判のインチキ性が明白に見て取れるのではないだろうか。

(渡辺昇一氏から)

川崎点描：川崎支部活動拠点

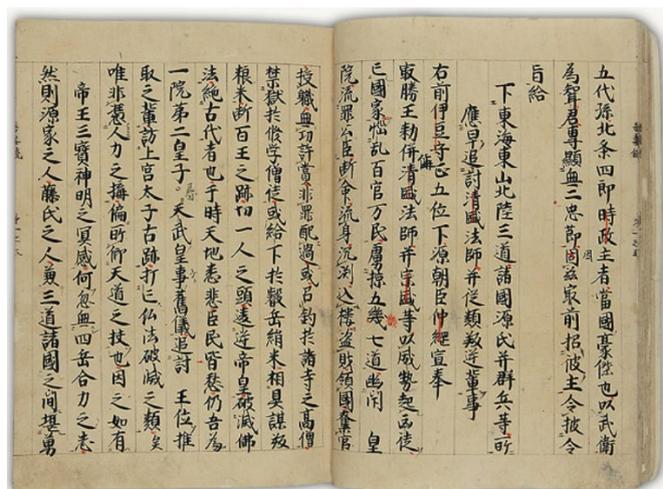
【(かわさきの魅力都市－「人口0人」の上丸子とは?) ③】

『吾妻鑑』にみえる丸子とは?)

2023年(令和5年)年6月30日現在の**上丸子の人口は0人**だったそうです。**上丸子全域が日本電氣玉川事業所の敷地**だったからです。沖積低地としては珍しく**古墳が築造**され、**鉄拳や埴輪も出土**しましたが、大正時代に多摩川の堤防工事で撤去されました。

「丸子」の地名は古くから『吾妻鑑』(註1)には武蔵国丸子庄を**葛西三郎清重に賜った**ことが残され、室町時代には「丸子保」と呼ばれ平間まで含まれるほどの広大でした。戦国時代には古河公方と上杉氏の戦いで、**太田道灌が「丸子城」に籠った**そうですが、川岸の地形から見ると要害ではなく、単に丸子へ陣を張っただけと解釈する方もいます。

(註1) **鎌倉幕府が編纂した歴史書**。1180年(治承4年)4月、**平氏討伐**を命じる以仁王(もちひとおう)の令旨(りょうじ)が伊豆の源頼朝のもとに届いた記事から、1266年(文永3年)7月の宗尊親王(むねたかしんのう 鎌倉幕府6代将軍)の**京都送還**までが、歴代将軍の年代記の体裁で(文体は和風の漢文体)記されています。



(吾妻鑑－徳川家康も、愛読して武士の道理や

治世の術を学んだ)

(川崎大空襲の上丸子とは?)

明治以降、上丸子は神奈川県に属し、**多摩川の鮎漁や砂利採取**が活発でした。大正時代には多摩川の改修事業では大規模な堤防工事が行われたことから、2つの集落が移転を余儀なくされ、古墳、桃の畑や養蚕業も廃絶しました。1935年(昭和10年)に**丸子橋**が開通しましたが、支所に架橋請願を申請してから50年以上が経過していました。

「多摩川」の鮎は、江戸期に美味しい食材として知られるようになりました。明治期に入ると、行楽として**鮎釣り**が行われ、**屋形船**を出して鮎漁を見物させ、その鮎を料理して提供する料理屋も人気となり、上丸子では「**鈴半**」「**多満や**」などの料理旅館が客を集めました。



戦時中には日本電気等軍需産業が当地に進出し、**川崎大空襲**では**軍需工場**や**鉄道路線**が**目標**になりました。川崎市は、昭和 17 (1942) 年 4 月 18 日の米軍による初めての本土空襲でも、攻撃目標になりました。その後、1944 年 (昭和 19) 年以降空襲が本格化するとともに、川崎市に**何度も米軍機が飛来**し、その度に被害を受けました。1942 年 (昭和 20) 年 4 月 15 日に **200 機余の B29** による大規模な爆撃を受け、市中心部と南武線沿いの工場が集中している地域は、壊滅的な被害を受けました。



(六郷橋から川崎駅西口を見る)



(空襲により被災地域)

1957 年 (昭和 32 年) に**上丸子山王町**が**分立**したので、「上丸子」として残るのは日本電気工場敷地内の身となりました。1972 年 (昭和 47 年)、川崎市が政令指定都市になりましたが、**新しい町名が設定されないで、今に至ります。**



(日本初の常設モーターサーキット「多摩川スピードウェイ」とは?)

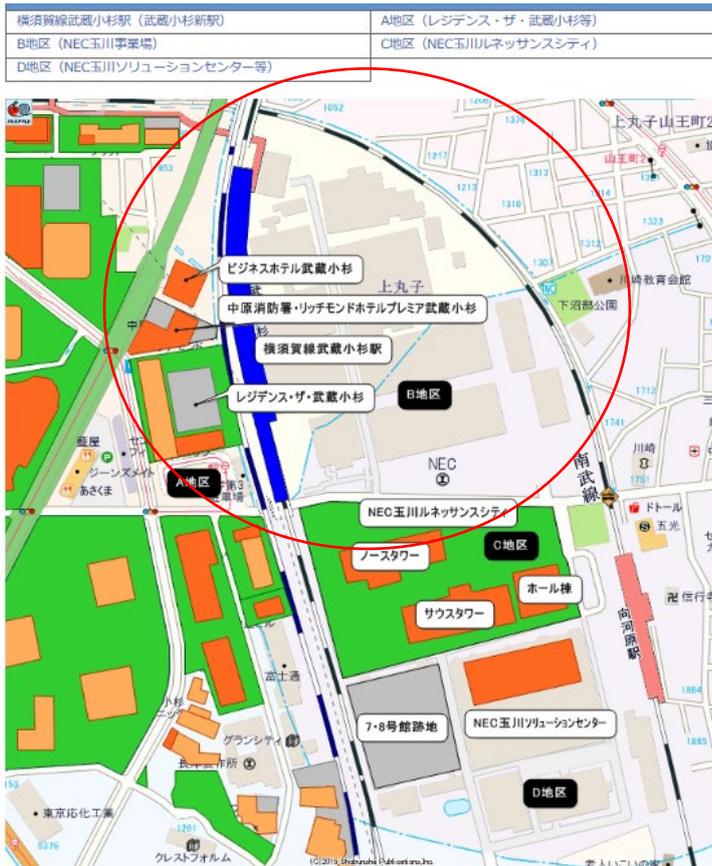
東京横浜電鉄(現・東急)東横線の「多摩川橋梁」の北側の河川敷に、1936年(昭和11年)、日本初の常設モーターサーキットである「多摩川スピードウェイ」が誕生しました。ここには、かつて青木根集落がありましたが多摩川改修工事で集落は移転となり、河川敷が大幅に広げられた場所でした。長径450m、短径260mの楕円形、1周1,200mの左回りコースで、「東京横浜電鉄」(現「東急」)が5万坪の土地と7万円の資金を提供し、篤志家が3万円の寄付を行い建設されました。この年には「第1回全日本自動車競走大会」が開催され、のちに「本田技研工業」を創業する本田宗一郎も自作のレーシングカー「ハママツ号」で参加しましたが、大事故を起こしています。

大会は1938年(昭和13年)の第4回まで続きましたが、「国家総動員法」の発令によるガソリン統制などが影響して、以後のレースは中止されました。戦後は、オートバイなどのレースも行われ、1949年(昭和24年)にはオートレースの創設を目指して「全日本モーターサイクル選手権大会」も開催されました。



(「多摩川スピードウェイ」の跡地の一角には、2016年(平成28年)に「80周年記念プレート」を設置)

(おまけ-50年前の武蔵小杉-右端が日本電気)



(画像は Yahoo Japan から引用)

支部の活動

- ① (済) 2025.02.15 (土) 第2回美味しいお茶とケーキでの交流会 (田園調布 ルピドール)
学生も参加し、先輩後輩の再会で盛況でした。
- ② 2025年03月22日(土): お花見 (世田谷区砧公園-11時に田園都市線用賀駅西口地上階に集合) 美味しいお弁当と飲み物 (アルコール有り) を用意。
参加費: 1,000円/人 (川崎支部から支援費として、1,000円/人を支給)
- ③ 2025年5月10日(土): 過去を風化させないシリーズ。第3回です。
「第九陸軍技術研研究所 見学」(明治大学生田校舎にて)

存じですか

【正座と日本人?】

「正座と日本人」(著者は医学博士の丁宗鐵氏)によると、**正座**は外国人から見ると**極めて特異な独自の文化**だそうで、正座が**フォーマルな座り方**になったのは、**明治政府**が国民をシャキッとさせようと意図的に広めたそうです。驚いたことに、**それ以前は、胡坐や立膝が礼儀正しい座り方**だそうです。

千利休も茶室が狭いので、立膝で座っていたそうです。正座は脳の血流を良くして**認知症予防効果**があるそうです。(丁宗鐵氏から)

次号もお楽しみに。皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。

2025/02/24

問合せ・連絡先：川崎支部 幹事長 松本浩一

TEL：090-9363-6082 E-mail：kawa_matsu51@v00.itscom.net